

虹の素 雨上がりには好きだといって Vol.1 (3月編)

「フリーゲルの風」

桜木想香

それは、消えゆく運命の前に起きた小さな奇跡

CAST

- ♂ 飛鳥 翼 …… 高校2年。サッカー部。千帆のことが好き。
♀ 仙波 千帆 …… 高校3年。元サッカー部マネージャー。颯太のことが好き。
♂ 平川 颯太 …… 高校2年。サッカー部。千帆のことが好き。
♂ 小島遊 隼人 …… 高校2年。サッカー部。
♂ 松本 翔平 …… 高校2年。サッカー部。風のことを好き。
♀ 飛鳥 羽音 …… 高校2年。翼と双子。サッカー部マネージャー。隼人のことが好き。
♀ 西條 風 …… サッカー専門のカフェバー「Kick off」の店員。
♂ 伊吹 …… サッカー専門のカフェバー「Kick off」のマスター。

1

雨上がりには好きだといって Vol.1 「フリーゲルの風」

神奈川県立横南高校。横浜市内の丘の上にある。
来年度より、県立浜北高校と合併し新設校になるため、最後の1年である。
「雨上がりには好きだといって」シリーズは、時代を2013年度に設定しています。
が、実際の史実・時代状況とは違う箇所もあります。

「OPENING」

桜の花びらも落ち、新緑が萌え始めた春の最中。
高校生の男子と、私服姿の女性が歩いてくる。

風が吹く。女性はふと立ち止まり、風のとおり道を目で追いかける。

千帆 光風。

颯太 え？

光風。光の風。晴れあがった春の日に、さわやかに吹く風。

颯太 へえ。光風。

千帆 ねえ。会いに行った？

颯太 まだです。

千帆 そう。

颯太 先輩は？

千帆 私も。

颯太 そうですか。

千帆 会いに行く？

颯太 ……はい。

千帆 うん。

颯太 でもその前に、やらなきゃいけないことがあつて。
なに。

風が吹く。

颯太 好きです。

千帆 うん。

千帆 ありがとうございます。

千帆 私も好き。

颯太 はい。

千帆 大好き。

颯太 ありがとうございます。

千帆 会いに行こう。

颯太 そうですね。会いに、行きましょう。

歩き出す2人。風が吹く。陰っていく。

よく晴れた横浜の3月。まだ少し寒さが残るが、日射しの心地よい春の日だ。校門まで続く桜並木は、つぼみを膨らませ、やがて来る桜前線を待ち望んでいる。体育館では、卒業式が行われている。すべての式次第を終え、寂しくも未来への光輝く道を思い起こさせる優しい曲とともに、卒業生たちが退場している。その様子を、屋上から見下ろしている4人の男子生徒達。在校生のようだ。

翼 あーあ。終わっちゃった。

翔平 終わったな。

颯太 ああ。終わった。

翔平 みんな出てきた。あー泣いてるねー。

颯太 おーい隼人、終わったぞー。起きろー。

隼人 お、何？終わった？

翼 終わった終わった。

隼人 どれどれ、おい見ろよ、カイト先輩泣してんじゃん。

颯太 別に珍しくもないだろ。引退する時も超号泣してたし。

隼人 確かに。別に泣くのは構わないけどさ。青春つぼいし。でもさすがにあれだけ泣くのは引いたねー。

颯太 結局ベスト8か。

翔平 行きてえーなあー。全国！

隼人 俺達がいくんだよ。

翔平 あそつか。俺たちまだ卒業じゃないか。なんか卒業気分だった。

颯太 おいおい。

翼 あー：千帆先輩卒業かあー…。

隼人 翼、なんでお前も泣きそうになつてんだよ。

翔平 いってこいよ。告白するならもう今しかないぞ。

翼 いいんだよ。千帆先輩彼氏いるんだから。

隼人 結局わからなかったな、千帆先輩の彼氏が誰か。

翼 え、カイト先輩じゃないの？

翔平 ガセだよガセ。確かに告つたらしいけど、フラれたって。

颯太 まじかー。知らなかった。

翔平 本当にいるのかな、彼氏。

颯太 え？

翼 どういうこと。

翔平 確かに。誰も見つけられないんだもんな。彼氏持ちって、ウンかも。

翔平 え、なんのために？

隼人 だから、好きでもない男から告られないようにするためだろ。

翔平 うわー。そういうことするんだ。性格悪。

颯太 まーでもそれも確証ないし。

颯太 カイト先輩告つたし。

隼人 千帆先輩はそんなことする人じゃないよ。

隼人 それは幻想ってもんだぞ翼。

隼人

翼

隼人

颯太

翔平

翼 あーもうまた隼人は冷たいことを言う。
現実だ現実。
翔平 てか千帆先輩いなくね？どっかいる？
颯太 え、あーそういうええばみてないかも。

4人の背後の扉がそつと開き、1人の女生徒が顔をのぞかす。
制服をきちんと着飾り、胸には祝いの花をつけている。

千帆 こら！こんなところでないにしてるの！
4人 はい！すいません！

反射で振り返り頭を下げる4人。

千帆 ははははは！ひっかかったあー。
翼 千帆先輩！
翔平 もう、びつくりさせないでくださいよ。
千帆 酷いなー、せつかくの私の卒業式なのにサボるなんて。
颯太 大丈夫ですよ、全部ちゃんと聞こえてましたから。
翼 卒業生代表挨拶、すっげーよかったです。
千帆 えーほんとにー？
颯太 こいつ、聞きながら泣いてましたよ。
翼 ばか、言うなよ。
千帆 ありがとう。
翔平 そうだ千帆先輩！翼がなんか言いたいことあるらしいっすよ！
翼 ええええええ！？ちよ、ちよとお！
千帆 なあに、翼くん。
翼 いや、あの……千帆先輩、その……卒業おめでとうございます。
千帆 ありがとう。
隼人 あ、先輩たちに挨拶してこなくちゃ！行こうぜ。
翔平 ああ、カイト先輩泣かしに行くか。
翼 ちよっと！待ってよ！

3人、出て行く。最後出て行こうとする颯太の裾を、千帆がつかむ。

千帆 好き。
颯太 え。

千帆が顔を上げ、颯太と目が合う。陰っていく。オープニングアクト。

〇〇 なあ、俺たちの部活、なくなる。

カフェ・バー「Kick off」サッカー好きの店主が経営しているため、店内にはサッカーグッズが飾られている。夕方は、部活帰りの高校生に安く大盛りの食事が出され、夜は大人たちがお酒を飲みながらテレビでサッカーを観戦する。
扉が開き、翔平、颯太、隼人が入ってくる。
カウンターの奥から、アルバイトの店員が出てくる。この店の看板娘だ。

あ、いらつしやい。

風さんっ！こんにちはー。

はいはいこんにちは。何にするー？

〇〇。

〇〇。

〇〇。

いつもの。

あーはいはい。

いやーいいね。いつもので通じちゃうのが。

翔平。真面目な話すんだよ。

はいはい。

でもさ、話するんだったら

でも、なくなるって言っても来年だろ。どっちみち俺たち卒業じゃん。

そういう問題じゃないだろ。

颯太 俺たちの部活がなくなるんだぞ！俺ら卒業するからってそれで関係ないのかよ！そうじゃないだろ！

翔平 そんなこと言われたって。風さあーん。

風 はい颯太君もそんなに熱くならないで落ち着いて。

翔平 ーい。お待たせしましたー。〇〇でございます。〇〇でございます。〇〇でございます。〇

隼人 〇でございます。そしてこちらが、いつもの、です。

風さん、ありがとうございます。

いいえー。

ちよつと俺には。

おまえ運んだだけじゃん。

翔平 それで、部活がなくなるって、どういうこと？

風 うちの学校、来年浜北高校と合併するらしいです。

隼人 本当に？合併って、統廃合ってこと？

はい。

翔平 でもさーなんでそれでサッカー部がなくなるんだよ。

風 確かに。別に新しい高校にもサッカー部くらいあるんじゃないの？

隼人 サッカー部がなくなるとは言ってますん。

隼人

翔平

颯太

風

隼人

風

颯太

翔平

翔平

風

隼人

翔平

翔平

風

翔平

颯太

颯太

翔平

翔平

翼

翔平

隼人

翔平

風

翔平

颯太

隼人

翼

風

翔平

風

え？

風 俺がなくなるって言ったのは、俺たちの部活だよ。

隼人 どういうこと

風 統廃合したら、学校名は横南じゃなくなりますよね。

颯太 つてことは、

翼 「横南高校サッカー部」は、今年でなくなるんです。

風 そっか……それは、寂しいね。

隼人 どうするよ。

翔平 どうするっていわれても。

翼 そりゃ悔しいよ。横南って名前がなくなるのはさ。

颯太 名前だけじゃないよ。今まで先輩たちが作ってきた伝統も、全部なくなるんだ。

翔平 そんなこと言ったってさあ！どうすることもできねえじゃん！今ここで俺ら

がどうこう話してなにか解決するのかよ。しないじゃん！もうやめようぜこの話！俺やだこの辛気臭い空気！

翔平 ちょっと風さあ〜ん (Help! Help! 空気かえて！)

風 (え？う〜ん……) あ、そうだ。そういえば翼くんは千帆ちゃんに告白したの？

飲み物を飲んで吹き出す翼。

隼人 うわ、きったねー。

翼 な、なんで……。

翔平 ごめん。

翼 おまえか。

風 まあでも、なんとなく想像ついてたけどね。で。どうだったの

翔平 だめですよこいつ。せっかくお膳立てしてやったのに。

翼 いきなりあんなことされても言えるわけないだろ。

翔平 えーなんでだよー。

隼人 あそうだ風さん、翔平がなんか言いたいことあるって。

風 おい！

翔平 なあに。

風 あ、いや、その。今日もきれいですね！

翔平 ふふ、ありがとう。

隼人 おい、なんでそんなこと言うんだよ。

翔平 お前こそなんで言わねーんだよ。せっかくお膳立てしてやったのに。

隼人 いきなりこんなことされても言えるわけないだろ。

翔平 これでわかっただろ翼の言ってることが。

隼人 あ、はい。すいません。

翼 いや、別にいいけど。それより隼人お前、○○な子が好きなの？

隼人

翔平

隼人

翼

隼人

翔平

翼

翔平

隼人

翔平

翼

隼人

翔平

隼人

翔平

隼人

翼

隼人

翼

翔平

颯太

颯太

翔平

颯太

颯太

翔平

颯太

颯太

翔平

颯太

翔平

颯太

翔平

颯太

翔平

颯太

翔平

颯太

翔平

颯太

翔平

颯太

ん？

えーお前わかってない。女の子は○○だろ。

いや、俺もそうだよ。

え、じゃあなんで。

いやだって、それで○○って言ったたら、マネージャー勘違いするだろ。

ああ、確かに。

羽音。あいつ、○○にしたよ。

ええまじで？

まじかよ。

本気だね。

多分リアクション求めてくるよ。

そーだよなー。あーなんて言おう。

もうぶった切っちゃダメなの？

だって、告られたわけじゃないし。

いやでももう好きなの見え見えじゃん。

それよりも部活に響くって。あいつふられたらどうなるかわからねえよ。

あーもうどうしようなあ颯太。

……。

颯太？

え、あ。ごめん。何？

聞いてろよー。

ごめん、

どうしたの？ぼーっとしてるなんて。颯太くんらしくない。

だよな

颯太をおいて盛り上がっているみんな。颯太はやはり上の空。風が吹く。

日射しが心地よい公園。千帆がブランコに揺れている。風が吹き、颯太がくる。

ごめんなさい、遅くなって。

ううん、いいよ。

これ。バレンタインのお返しです。少し早いけど。

颯太、プレゼントを取り出し渡す。

ありがとう。

横南、なくなっちゃうんだね。

はい。

寂しいね。

はい。

颯太

翔平

颯太

翔平

颯太

翔平

颯太

雨上がりには好きだといって Vol.1 「フリーゲルの風」

千帆 颯太くん、勝ち進もう。一試合でも多く勝って、少しでも長く、横南高校サッカー部でいよう。

颯太 はい。

颯太 あの、千帆先輩。

千帆 なあに。

颯太 あの、返事。

千帆 うん。

颯太 もう少し、待ってもらえませんか？

千帆 そっか……。

颯太 すみません。

千帆 ううん、いいよ。わかった。

颯太、千帆の隣のブランコに腰掛ける。それっきり、お互いに口を開かない。お互いに、お互いを横目で意識するが、お互いの視線はすれ違う。風が吹く。千帆がくしゃみをする。

颯太 花粉ですか？

千帆 ううん。平気なはず。

颯太 そうですか。

千帆 でも今日多そうだね。

颯太 天気いいですからね。

千帆 うん。

千帆 いい天気だね。

颯太 いい天気ですね。

千帆 そうだね。

風が吹く。

千帆 恵風。

颯太 え？

千帆 恵風。万物を成長させる恵の風、春風。

颯太 へえ、恵風。

千帆 ねえ、知ってる？

颯太 何をですか？

千帆 日本にはね、風の名前って2000個以上あるんだよ。

颯太 そんなにあるんですか。
うん。

颯太 あ、だから今、恵風って。
千帆 そう、覚えてるの。
颯太 2000個覚えるんですか？
千帆 そんなに覚えられないよ。
颯太 そっか。そうですね。

千帆 でもね、目に見えないものに、こんなにたくさん名前がついてて、そこには、名前をつけた人たちの生活があつて、そういうのを考えると、楽しいんだ。

千帆 返事。
颯太 はい。
千帆 決まったら、また連絡してくれる？
颯太 はい。
千帆 これ、ありがとうね。

千帆、足早に行ってしまう。その背中を追って見つめる颯太。風が吹く。陰っていく。サッカ―部の部室。羽音が掃除をしている。練習着姿の隼人がくる。

羽音 あれ隼人。どうしたの？もうみんな帰ったよ？
隼人 ん、残ってちよつと練習してた。
羽音 そうなんだ。
隼人 おまえはなにしてるの？
羽音 何って、片付けだよー。ボトルとかタオルとか。そろそろ大掃除しなきゃねー。
隼人 ああ。
羽音 後輩楽しみだなー。マネージャーたくさん入るかな？
隼人 さあ。入るといいな。
羽音 あれ隼人、足どうしたの？
隼人 ん、ああ、別にたいしたことないよ。
羽音 わ、血でてるじゃん！大丈夫？
隼人 別に見た目ほどいたくはないよ。
羽音 消毒しなきゃ。やってあげるよ。

羽音、救急箱を取りに行きすぐ戻ってくる。
羽音 はい、傷見せて。
隼人 別に大丈夫だよこれくらい自分でできるから。
羽音 いいからいいから。ほら足だして。

足をだす隼人。なれた手つきで手当をする羽音。消毒液が傷口にしみる。
羽音 がんばるね隼人。お疲れさま。

隼人
や。
別にこれくらいフツーだよ。本気で勝ちたいんだったら誰よりも練習しな

羽音
それをフツーだって言える隼人はすごいよ。

隼人
……サンキュ。なんか、慣れてんな。

羽音
そりゃ、マネージャーですから。

隼人
関係あるの、それ。

羽音
あるよー。はいできました。だからいつでも思いっきり怪我していいからね。

隼人
いや、怪我はしないように気をつけるけど。

羽音
なんでよー。

隼人
お前今選手に怪我しろっていつてるからな。

羽音
あ、そっか。ダメか。

羽音
ねえ隼人、今日何の日か知ってる？

隼人
え？あーあれだろ、ホワ……。

隼人
ホワ、ほら、円周率の日？

羽音
なにそれ。

隼人
え、だから、3.14だから？

羽音
あ、あーなるほど。

隼人
じゃあ、俺帰るな。

羽音
あ、うん。お疲れさまー！

隼人、走って行く。羽音、ためいきひとつ。

翼の部屋。翼がサッカー雑誌と飲み物を持って戻ってくる。

翼
おまえさあ、勝手に人の部屋入って来るなよ。

翼
何。また隼人のこと？

羽音
ねえ、

翼
あ、そーだ。はいこれ。

翼、羽音にキャンデーを放る。

羽音
なに、これ。

翼
ホワイトデー。一応くれたし、一応お返し。

羽音
ありがとう……。

羽音
ねえ、やっぱり、普通はお返しするよね。

翼
んーまあ、するんじゃない？

羽音
だよー。

翼 羽音 翼 羽音 翼 羽音 翼

さつきまでの様子とうって変わって跳ねまわる羽音。陰っていく。

翼 ほうら。
羽音 え。
翼 ……隼人から。
羽音 ほんとに？
翼 ほうら。
羽音 もーなんで早く渡してくれないの？
翼 ……。

翼 羽音 翼 羽音 翼 羽音 翼 羽音 翼

しつこくわめき散らす羽音。翼、うんざりして包みを取り出す。

翼 なにが。
羽音 くれなかった。
翼 隼人？
羽音 うん。
翼 そっか。
羽音 くれなかった。
翼 ああ。

翼 くれなかった。
羽音 わかったって。

「Kick off」 店内。土曜日の夕方。千帆と風が話をしている。

千帆 えーじゃあホワイトデーもらってないんですか？
風 そうなの。酷くない？忙しいばかりで全然会えないし。
千帆 それ言い訳にしちゃダメじゃないですか？そういうときこそ、少しでも時間つくってもらうんですよ。
風 そうだよー。
千帆 そういうところから愛って冷めてくと思うんですよ私。

扉が開き、翼達4人が入ってくる。

翔平 いやだから今年こそ絶対浦和が優勝だって！
颯太 まあ浦和は強いよな。
千帆 あーきたきた。
風 いらっしやい。
翼 千帆先輩！どうしたんですか？
千帆 別に？なぎさんとおしゃべりー。
風 なににする？
翼 コーラ。
千帆 コーラ。
翔平 コーラ。
風 いつもの。
颯太 みんなコーラね。
千帆 みんなは、試合見てきたの？
颯太 はい、Fマリノス対〇〇。
風 どうだった？
翼 2対1でFマリノス。
千帆 今年も始まったもんね。えっと、翼くんと隼人が横浜Fマリノス、颯太くんが川崎、翔平くんは浦和だよな。
翼 あとやっぱ優勝候補は広島、仙台？
隼人 あと鹿島かな。
風 あとレイソルとか。
颯太 でも今Fマリノス調子よすぎじゃね？
翼 な。今1位だもんな。
颯太 ごめんな最下位の川崎。
隼人 まだ始まったばかりだしこれからだよ。
颯太 うえーい負け惜しみ。
千帆 ちげーよ。

翔平 風さんはどこのチーム応援してますか？？
翔平 うーん、私はやっぱりFマリノス。
翔平 じゃあ浦和とFマリノスの試合一緒にいきましようよ！
風 別にいいけど、どっちのスタンド入るの？そっち側にいくのヤダよ。
翔平 あ、はい……。
翔平 翔平。
翔平 どんまい。
翼 千帆先輩はどこですか？
千帆 え、私？
千帆 好きなチーム。ありますか？
翔平 あるよ。
千帆 どこですか？
翼 ない。
千帆 え、どっちですか。
翔平 あるけどない。
風 あるけどない？
千帆 当ててみて。
翔平 浦和レッズ！
風 バカ。お前と一緒にするなよ。
翔平 なんだだよ。
千帆 やっぱり地元だから横浜Fマリノス？
風 近い。
千帆 千帆先輩の好きな選手知ってるだろ。
翼 え、遠藤と榎崎？
隼人 そう。つまり……。
翼 ガンバ大阪。
千帆 違う。
翼 じゃあ名古屋グランパス？
千帆 ううん。
翔平 えーじゃあどこですか。
千帆 どこでしょう。
隼人 ヒント。
千帆 もう出しました！

あーだこーだ盛り上がる4人。

千帆 ねえみんな、横浜F・マリノスの、Fって何か知ってる？
翼 え？F？
隼人 なんですか？
風 あ！あるけどないってそういうことか。

翔平 へ、颯太わかったの？
颯太 横浜フリーゲルス……？
千帆 そう。

翔平 フリーゲルス？
千帆 よく知ってるね。颯太くん、まだ1歳とかだったでしょ。
颯太 先輩、フリーゲルスのサポーターだったんですか。
千帆 だったじゃない。今も。

千帆 でも、千帆ちゃんも子供の頃じゃない？
千帆 お父さんがフリーゲルスのサポーターです。だから私も、ちゃんとフリーゲルスのことを知ったのは小学生のころ。まだ部屋中にフリーゲルスのグッズとか、選手の写真とか、試合の映像とか沢山あって、それに囲まれて育ったから、いつのまにか私もフリーゲルスのファンになった。
千帆 そうなんですか。

千帆 横浜フリーゲルスはね、1992年のJリーグ開幕時の加盟チームのひとつで、年によつては優勝争いをしてリーグを盛り上げたわ。でも、1998年10月、出資会社の経営不振と赤字で横浜マリノスに吸収合併されることが発覚。フリーゲルスは消滅することになったの。

千帆 そうだったんですか。
千帆 もちろん多くの反感を買ったわ。サポーターたちがスタジアム前に集まって運営側との話し合いを要求したり、署名運動には選手たちも街頭に立って活動に加わって、全国から50万もの署名が集まった。
千帆 そんなに！
千帆 すごいですね。

千帆 でも、それでも合併が取り消されることはなくて、発覚から約1ヶ月後、電撃的に合併の調印式が執り行われたわ。
千帆 そんなに署名集まったのにダメだったんですか？
千帆 でもね、フリーゲルスは、最後に風を起こしたの。

千帆 颯太 風、ですか。
千帆 合併消滅が決まった中、天皇杯が開幕。フリーゲルスの最後の大会。リーグ戦と違って、トーナメントだから、負けたら即、チームは解散。そんな状況下で、彼らは勝ち進んだ。そしてなんと、最後に優勝したの。

千帆 ええ！？
千帆 優勝！？
千帆 優勝したんですか！？
千帆 そう。1999年1月1日。最後の大会で優勝して、チームは消滅。結果、この天皇杯を含めて、フリーゲルスは、合併発覚してから解散するまでの9試合全てを勝利で飾ったの。

千帆 すごい。かっこいいですね。
千帆 うん。かっこよかったですかと思う。その勇姿は、多くの人たちを魅了したし、千帆先輩もその一人ですね。

千帆 そうだね。それは、消えゆく運命の前に起きた小さな奇跡。フリーゲルスは

雨上がりには好きだといって Vol.1 「フリーゲルの風」

千帆 翼 千帆 4人 4人 翼 隼人 翼 颯太 翔平 翼 隼人 颯太 翔平 隼人 颯太 翼 隼人 翔平 翔平 隼人 翔平 千帆 翼 千帆 隼人 翔平 颯太 千帆 翼 千帆 翼 千帆 隼人

私たちに熱い気持ちだけを残して、あっという間に消えた。
だから、風なんですネ。

私は、そうだと思ってる。

俺もそう思います。

そう？ありがとうございます。

はい。

だから、みんなも、がんばって。

え、俺らもって？

なるのよ。

俺らが？

フリーゲルスに？

違うだろ。

風に。

そうですね。風になれたらいいですね。
なれたらいいじゃない。なるの。

なんかさ。

ん？

俺たち、かっこよくね？

ばーか。

でも。

燃えるな。

おう。

やるだろ。

当たり前だろ。

やってやろうぜ。

おう！

俺ボール蹴りてえ。

ああ。

蹴りたい。

蹴りたい。

サッカー！

やりたい！

いよおおおおおつし！やるぞおおおおおつし！！！！

いいなあ。私も、もう1日遅く生まれたかったなあ。

え。

もう1日遅く生まれてたら。みんなと同じ学年になれたのに。

颯太

付き合う気ねーだろ。本当に付き合いたかったら彼氏のこと素敵な人とか言わねーよ。あいてがどんな奴だろうと振り向かせて奪ってみせるくらいのこと言うだろ。

翼

違う。

颯太

なあ、本当に千帆先輩のこと好きなの？好きじゃないよなあ。

翼

違う。

颯太

違うわいなね。お前は千帆先輩のこと好きじゃない。

翼

好きだよ。

颯太

好きじゃない。

翼

好きだよ！大好きだよ！

颯太

じゃあどうしてそばにいたいって思わないんだよ？どうして隣にいたいって思わないんだよ？どうして自分の物にしようって思わないんだよ？

翼

俺は、先輩が笑ってたらそれでいいんだ。

颯太

いくら笑ってたって、隣にいなきゃ意味ねーだろ。

翼

隣にいたって、悲しんでたら意味ねーだろ。

颯太

お前が笑わせてやればいいだろ。

翼

先輩が一番笑顔を向けるのは俺じゃないんだよ。

颯太

お前に向けられるようにすればいいだろ。

翼

だからそういうことじゃないんだよ。

颯太

お前結局フラれるのが怖いだけだろ。ただのビビリの意気地なしじゃん。17

翼

なんでそうなんだよ。

颯太

彼氏がいるってだけで諦めて、傷つかないように最初から自分のこと慰めてる

翼

だけの弱虫じゃんかよ。

颯太

違えよ！

翼

じゃあ言ってみろよ。千帆先輩に、好きって言ってみろよ。それで彼氏から奪

颯太

ってみろよ。

翼

わかったよ。好きっていうよ。千帆先輩に。

颯太

おう。

翼

でも言うだけだ。奪うとかそういうつもりはない。俺は、千帆先輩が笑って

颯太

ばそれでいいんだ。

翼、歩いて行く。颯太、その背中を見送りながら。

颯太

………痛え………。

陰っていく。

日も暮れた放課後の部室。羽音が片付けをしている。隼人、来る。

お疲れ。

隼人もお疲れさま。疲れてるのに頑張るね。

疲れてる時に練習しなきゃ意味ねーんだよ。

そっか。

私もボール蹴りたいな。

どーぞ。

相手がいないと蹴れないでしょ。

えー俺？

優しくパス交換をする羽音と隼人。

なんか、慣れてんな。

そりゃ、マネージャーですから。

関係あるの、それ。

あるよー。

ああ、そう。

ありがとうね。

なにが？

ホワイトデー。

は？

翼から受け取ったよ。マシユマロ。

あ。ああ。

こないだね、風さんと千帆先輩、ディズニー行ってきたんだって。

へえ。

私も行きたいなあ。

そう。

ねえ、行かない？

いや、俺はいいや。

そう。

なんで？なんかあるの？

え、いや。人混みとか、そんな好きじゃないし。練習したいし。

羽音 平気だよ、空いてる時とかもあるし。たまには息抜きも必要だって。
隼人 いや、いかない。
羽音 ……そう。そっか。嫌なんだ。

隼人 あのさ。そんな風に言われて応えられると思う？

羽音 ごめん。

隼人 あと俺、ホワイトデー返してないから。

羽音 え。

隼人 翼に渡してなんて頼んでねえから。

羽音 え、あ…そう。そっか、そうなんだ。

隼人 じゃ。鍵閉めよろしく。

羽音 あ、うん。またね。

隼人、 出て行こうとする。その腕をつかみ背中にしがみつくと羽音。

隼人 何。

羽音 ごめんなさい。少しでいいからこうさせて。

隼人 悪い。離して。

羽音 ……。

隼人 俺が振り払ってもいいんだけど。

隼人 離してくれ。

羽音、 隼人から離れる。出て行く隼人。扉を閉める音が、やけに冷たく感じた。
公園。千帆がいる。颯太が来る。

颯太 ごめんなさい、遅くなって。

千帆 ううん、大丈夫。

颯太 はい。25日の水曜日。

千帆 そっか今日水曜日なんだ。ずっと休みだから曜日感覚なくて。

颯太 えーしっかりしてください。

ベンチに腰掛ける颯太。

千帆 桜、満開だね。

颯太 そうですね。もう3月も終わりか。

千帆 明後日から4月だね。

颯太 あっという間に3年だなあ。

千帆 良い選手たくさん入ってくるといいね。

颯太 そうですね。ディフェンスは特に。まあでも、やっぱり私立の強いところ行きたい人が多いですよ。

千帆　　そっか。
颯太　　でも、俺が中3の時の先輩たちが、私立の強いところ倒して県の決勝まで勝ち

千帆　　進んだ時、すごいかっこいいって思ったんですよ。
颯太　　あーうん！

千帆　　俺達の代は、それ見て入ってきたやつ多いですから。翼も隼人も翔平も。
颯太　　そうなんだ。

千帆　　思い入れ強い奴らばっかりですから。先輩たちの思いも背負って、最後に絶対
颯太　　全国行きますよ！全国行って、風になります。

千帆　　ふふ。

颯太　　なんですか。

千帆　　ううん。先輩らしくなったなーって思って。すごいね、男の子って。

颯太　　そうですか？

千帆　　うん、頼もしく見える。

風が吹く。

千帆　　あーあ。やっぱり、あと1日遅く生まれてればよかったな。

颯太　　そうですね。

千帆　　え。

2人の目が合う。お互いに、想い合っているかわかる眼差し。

吸い寄せられるようにして、唇が触れ合う。刹那。

颯太　　ごめんなさい。

千帆　　え。

颯太　　俺、千帆先輩とは付き合えません。

千帆　　え……なんで。

颯太　　千帆先輩の気持ちはすごくうれしいです。

千帆　　だったら……。

颯太　　でも。

千帆　　でも……でも、何？

颯太　　翼を裏切れません。

千帆　　翼くん？

千帆　　気づいてますよね翼の気持ち。知ってるから彼氏がいるとか嘘ついてたんですよ。
颯太　　よね。翼から告白されないように。告白されて振って傷つけないように。

颯太　　翼は、千帆先輩が笑ってくれてたらそれだけでいいって言ってました。例えば自

分のものにならなくても、千帆先輩が幸せならそれでいいって。

千帆　　うん。

颯太　　俺、そういう風に思えないんです。千帆先輩のことほしって思っちゃいます。

千帆

颯太

俺のものにしたいって。俺が笑わせたいって。それじゃダメなの？

勝てないって思っちゃうんです。俺の好きって気持ちよりも、翼の方が大きいって思っちゃうんです。翼は、本当に千帆先輩のこと好きですよ。俺なんかよはずとずっと千帆先輩のこと想ってます。だから翼と付き合ったほうがいいと思うんです。その方が千帆先輩幸せになりますから。

千帆

颯太

……はい、思ってます。

千帆

そう……。

千帆

わかった。翼さんと付き合えばいいのね。そうするね。

千帆

千帆、歩いて行く。その背中を見送る颯太。隼人が現れる。

隼人

颯太……。

隼人と目が合う颯太。陰っていく。

電話をしている風。表情は曇り、今にも泣き出しそうだ。

ねえ 今なんて言ったの？
さっきまであんなに楽しかったのに
一瞬で胸が痛い

颯太と隼人、お互いにお互いの相談をしている。

嬉しい気持ちばかり
もらって返すことのできない想いに
押しつぶされそうになる

それぞれにスポットが当たる。

冷たくするほど苦しくなる（隼人）
優しくするほど悲しくなる（颯太）
冷たくされるほど寂しくなる（羽音）
優しくされるほど切なくなる（千帆）

どうして 想えば想うほど
傷つけてしまうのだろう
傷つくとわかっていても
想わずにはいられないよ

それぞれの想いが交錯し、絡まり解け消えていく。
千帆だけが残る。公園。俯いている。翼が通りかかる。

翼 あれ、千帆先輩？
千帆 翼くん？
翼 どうしたんですか？こんなところで。
千帆 うん、ちよっとね。
翼 何かあったんですか？
千帆 なんです？
翼 わかりますよ。千帆先輩、元氣ないですから。

翼、何も言わずに隣に座る。

千帆 何も聞かないの？

翼 話したくないことを無理して聞いたりしませんよ。
千帆 そっか……。ありがとう。

風が吹く。

千帆 あのさ、翼くん。明後日さ、部活休みだよ。遊びに行こうよ。
翼 遊びに？

千帆 うん。

翼 いいですけど。なんで、俺と？

千帆 ダメ？

翼 だって……。

千帆 なぁに？

翼 千帆先輩、彼氏いるじゃないですか。

千帆 だから、俺なんかと遊びにいったら、彼氏さんに悪いし……。
翼 私今彼氏いないよ。
千帆 え。

翼 本当に。

千帆 本当に。

翼 なんで……。

千帆 あ、ごめん、ちょっと。帰らなくちゃ。

翼 千帆先輩！

千帆 なぁに。

翼 行きます！死んでも行きます！絶対！

千帆 じゃあ、二時に改札の前でどう？

翼 はい！

千帆、走っていなくなる。翼、その場に倒れこみ。

翼 なんだよ、やった、やった。あ—————っ！！！！

身悶えし続ける翼。走っている千帆が浮かぶ

千帆 どうして、どうして颯太くんと翼くんは友達なの？どうして翼くんは私のこと好きなの？翼くんが私のこと好きじゃなかったら、颯太くんと翼くんが友達じゃなかったら良かったのに、どうして、ねえ、どうしてなの！？

颯太と隼人の姿が浮かぶ。

隼人 お前、本気で千帆先輩を翼にやるのかよ？

あぁ。
お前ばかなの？本当にそれでいいのかよ。
俺は今、千帆先輩よりも、部活の仲間の方が大事だ。それに、俺より翼の方が相応しいよ。俺なんかより、翼のほうがきつと、千帆先輩を幸せにできる。

千帆 (颯太くん！)

颯太 なぁ、なんでだろう。

隼人 なにが。

颯太 なんて、翼(くん)と俺(颯太くん)は友達なんだろう。

隼人 なんてって。

千帆 (颯太くん！)

颯太

どうして、どうして俺と翼は友達なんだ？どうして翼は千帆先輩のこと好きなんだ？翼が千帆先輩のこと好きじゃなかったら、俺と翼が友達じゃなかったら良かったのに、どうして、なぁ、どうしてなんだ？

隼人、颯太を殴り飛ばす。泣き崩れる千帆。

隼人 お前本気で言ってるのかよ。

颯太 ……。

隼人 そんな風に思ってるなら、友達なんてやめちまえ。

24

隼人 翼はなんて言ってるんだよ。先輩が笑ってくれてたらそれでいいって言ったんだろ。

颯太 言ってたよ。

隼人 先輩が一番笑える所にいければそれでいいって言ったんだろ。

颯太 そうだよ。

隼人 それはお前なんだよ。千帆先輩が、一番笑っていられるのは、お前の隣にいるときなんだよ。翼はそれを望んでるんだ。

隼人 そうかもしれないけど、それを翼が知ってどうするんだよ。名前も顔も知らないやつならそう言えるかもしれないけど、いっつも一緒にいた友達に好きな人とられるんだぞ。それで穏やかでいられるかよ。

隼人 翼はそんな奴かよ。お前と千帆先輩が付き合って、恨んだり妬んだりして、お前のこと嫌いになって仲悪くなるような奴かよ。そんな心の狭い男かよ翼は！

隼人

翼の姿が浮かぶ。誰かの幸せを心から願う顔だ。

翼の部屋。ドアをノックする音。

翼 どうぞ。

羽音が入ってくる。

風 翔平

翔ちゃん、今日、うち泊まりだよ。
……。
いいよ。翔ちゃんなら。しても。

風、翔平の唇に重ねようとする。風の身体を振りほどく翔平。

翔平

帰ります。

風

待って。どうして。

翔平

俺は風さんの寂しさを紛らわすためにいるんじゃないです。そんなことしたって、悲しみは消えないし、余計虚しくなるだけっすよ。

風

でも、1人になりたくない。

翔平

風さん、失恋から立ち直るのに必要なのは次の恋なんかじゃないっす。1人になりたくないからって誰でもいいから寝るのも違うと思います。俺、したことないんで、初めてをそんなふうに捨てんのだけは嫌です。俺の好きな風さんはそんな弱い女じゃないです。

風

翔ちゃん。

翔平

さようなら。

翔平、足早に立ち去っていく。うなだれる風。陰っていく。

翼

好きになってほしいから好きでいるんじゃない。見返りを求めたら、その時点で愛は終わりだよ。喜ばせたいって気持ちと、喜んだ顔を見て満足したいって気持ちは違う。俺だって全部はわからないよ。この気持ち、自分のためにあるのか、相手のためにあるのかは。でも、それを考えてないと、何も始まらないんだと思う。

陰っていく。

4月の朔日。待っている千帆。腕時計で時間を確認する。
部室。羽音がいる。隼人が来る。

なにしてんの。

掃除。4月になったし。

そう。

隼人は。今日、せっかく部活休みなのに。

いや。ボール蹴ろうと思って。

そう。

お前んちの近くにセブンあるじゃん。

うん。

車突っ込んだっぼいよ。

え！嘘！？……あ違う。嘘じゃん。

嘘じゃないよ。それで道混んで、バスすげー遅れた。

そう。

着替えるよ。

あ、うん。

「Kick off」翔平が来る。風が出てくる。

いらっしやいませ。翔平くん？

こんにちは。

どうしてここに。

来ちゃダメでした？

ううん。

お客さんが来るのにどうしてもこうしてもないんじゃないですか。

そうだね。

風さん。

なあに。

いつもの。ください。

はい。

息を切らせて走ってくる翼。

千帆先輩！

あーやっとな来た。

翼 すいません！遅くなりました！
千帆 ほんとだよ。なかなか来ないから心配しちゃった。
翼 ごめんなさい。寝坊して慌てて家出たら携帯忘れちゃって。本当にすみません。
千帆 もー。しょうがないなあ。まあいいよ。さ、行こうか。
翼 はい。

2人、歩いていく。雨が降り出す。

羽音 あ、雨。
隼人 うわ、まじかよ。

翔平 俺、傘持ってきてないや。
風 私も。洗濯もの干しっぱなしだなあ。

降り出した雨から逃げるように、千帆と翼が駆け込んでくる。

翼 もーなんでいきなり降り出すんだよー！
千帆 びっくりしたね。
翼 予報で雨降るなんていってなかったですよ。
千帆 あーあ。せつかくおしやれてきたのに。濡れちゃった。
翼 すみません。
千帆 翼くんのせいじゃないでしょ。
翼 そうですけど。

翼 かわいいですよ。
千帆 本当？ありがとう。

店の中から、店員が傘を持って出てくる。

美鈴 あの。
千帆 はい。
美鈴 もしよかったですら、この傘使ってください。
千帆 え、いいんですか。
美鈴 どうぞ。もう随分前のお客さんの忘れ物ですから。
千帆 でも、取りに来ない？
美鈴 こんなただのビニル傘取りにきませんよ。
千帆 それもそつか。じゃあ、ありがとうございます。今度返しに持ってきます。
美鈴 いや、持ってこられてもいららないんでやめてください。
千帆 わかった。じゃあありがたください。

店員は店の中に戻っていく。

千帆 可愛い子だったね。傘もらっちゃった。
翼 よかったですね。
千帆 いこっか。
翼 はい。

千帆、傘をさして翼に傾ける。翼、傘に入る。距離が近い。歩いて行く。
雨の音がこだまする。

羽音 あのさ。
隼人 ああ。
羽音 ごめんなさい。
隼人 あ？
羽音 いや。

羽音 と。友達でいいから。できれば、隼人と、一緒に、仲良くしたい。

隼人 俺ら。絶対全国行くし。

羽音 え。

隼人 だから、死ぬ気で練習するし。

羽音 え。雨だよ。

隼人 サッカーは雨でもやるんだよ。

羽音 うん。

隼人 練習してたらケガとかするし。いや、でかいのじゃなくて、小さいのとかな。

羽音 うん。

隼人 だから、手当してくれる奴は必要だろ。マネージャー。

羽音 うん。

隼人 ボール蹴るわ。

羽音 いっぱいケガしていいからね。

隼人 やっぱり絶対ケガしない。

隼人、ボールを持ってかけていく。羽音も傘をさして追いかける。

風 翔平 あのね、私。
風 はい。

翔平 さっきまで、どうして彼が離れていったのか、わからなかった。でも、今ちよつとわかった気がする。

風 私は、自分のことしか考えていなかった。相手がどういう気持ちでいるかとかよりも、自分が寂しいとか悲しいとかそういうことばかりで。翔平くんにも

嫌な思いさせちゃったし。

風

彼は、私といても幸せにはなれなかったんだよね。私と別れた方が幸せになれるんだよね。私はずっと、私が彼のことを幸せにできると思ってた。幸せにしたいと思ってた。でも、私は私の幸せのことばかりで、本当の意味で彼の幸せのことを考えてなかった。だから、彼が幸せになれるなら、私はこの恋の終わりを受け入れていきたいと思う。

翔平

そうですか。

雨が上がる。

風

やんだみたいだね、雨。

翔平

そうですね。

翔平、帰ろうとして立ち上がる。

風

もういっぱい、飲んでいかない？おいしいお茶、淹れるから。

翔平

——トイレ。借りますね。

2人、いなくなる。雲の切れ目から光がさしこみ、風が吹く。

千帆

あがったね、雨。

翼

はい。

千帆

光風。

翼

え？

千帆

光風。光の風。晴れあがった春の日に、さわやかに吹く風。

翼

へえ。光風。

光に照らされて、千帆の横顔が輝いている。満ち足りた笑顔。とても、とても美しい。

翼

俺、先輩のことが好きです。

千帆

うん。

千帆

私も翼くんのこと……。

翼

だから、俺、千帆先輩が一番笑えるところにおいてほしいです。

千帆

え。

翼

千帆先輩。今日いちにち、誰のこと考えてました？

千帆

誰のことって。どうして……。

翼

わかりますよ。

翼

まだ好きなんですよ。その人のこと。

千帆

そんなことないよ。私は……。

翼

先輩。いいんです。

翼

俺のこと、好きになろうとしてくれたんですよ。

千帆

ごめんなさい。

翼

謝ることじゃないですよ。

千帆

ごめんなさい。私……。でも、翼くんのこと、すごい、大切に。

翼

わかってますよ。

翼

俺、千帆先輩にそういう風に思ってもらえてすごく嬉しいです。でも、俺、そうやって俺と一緒にいるよりも、千帆先輩が笑ってくれる方がいいです。好きな人のこと、想い続けてください。あきらめないで。いや、ずっとそうしろってわけじゃないですけど。でもやっぱり、そっちの千帆先輩のほうが、俺は好きです。

千帆

……うん。

千帆

翼くん、ありがとう。今日は、楽しかったよ。

翼

はい。俺も、すごく楽しかったです。一生の思い出になりました。もう思

千帆

い残すことはありません。

翼

もう、何言ってるの。大げさなんだから。

千帆

大げさじゃないですよ。

翼

千帆先輩。実は俺、死んでるんです。

千帆

え？

翼

俺、来る途中で事故に遭ったんです。

千帆

事故って、何言ってるの。

翼

コンビニに車が突っ込んで、俺、それに巻き込まれて。

千帆

冗談でしょう。

翼

冗談じゃないんです。

千帆

千帆の携帯が鳴る。颯太から。千帆、電話に出る。

千帆

もしもし。

颯太

もしもし。

千帆

千帆先輩……。

颯太

颯太くん？もしもし？どうしたの？

千帆

翼が……翼が事故に遭いました……。

颯太

え……？嘘でしょ。だって翼くんは——。

千帆

え……？嘘でしょ。だって翼くんは——。

突然、電波が途絶えてしまう。

千帆 え？もしもし。もしもし？ちよつと何。

翼 ね。言ったでしょ。死んでるって。

千帆 嘘……だよ。だってらどうして今私の目の前に翼くんはいるのよ？

翼 死んでも行きます。って言ったじゃないですか。

千帆 え。

翼 約束した時、死んでも行きますって言ったじゃないですか。だから来たんです。

千帆 千帆先輩に会いに。

千帆 ねえ、本当に死んでるの？

翼 本当です。その証拠に、触ろうとしても、すり抜けますよ。

千帆 いや……でも。

翼 やってみます？

千帆 待って。そんな、いいよ。

翼 ほら。

千帆 やめて！

身をすくめる千帆の肩に、ぽんと手を乗せる翼。

千帆 え？

きよんとする千帆の顔。笑いが込み上げる翼。

千帆 ……え、え？え？

翼 冗談ですよ。

千帆 今日は何月何日ですか？

翼 4月……1日？あつ。

千帆 もうっ！バカ！バカバカバカ！

翼 いやだつてさすがに気づきますよ！なのにマジでひっかかるんですもん！

千帆、翼にすがりつく。驚き固まる翼。千帆の目からは涙があふれている。

千帆 バカ！私、本当に翼くんが死んだかと思って……。

翼 すいません。ちよつとやりすぎました。

千帆 ちよつとじゃない……。

翼 ごめんなさい。

千帆 よかった……死んでなくて。良かった……。

千帆 千帆先輩。泣かないで下さい。

千帆 翼くんが泣かせたんだよ。

翼
そうですね。すいません。でも、泣かせたかったわけじゃないんです。千帆先輩の涙が見たかったわけじゃないんです。先輩のこと、驚かせたくて。

そう言って懐からプレゼントを取り出す翼。(ピアスカイヤリング)

翼
笑って下さい。千帆先輩は笑ってる顔が一番だから。

千帆
え……これは？

翼
誕生日おめでとうございます。

千帆
え、これ？いいの？

千帆
ありがとうございます。嬉しい。

翼
喜んでもらえてよかったです。

千帆
じゃあ、気をつけて。

翼
ありがとうございます。今日は楽しかった。

千帆
俺もです。

翼
またね。

千帆
千帆先輩。さようなら

千帆、バスに乗り込む。手を振る千帆。それに応えるように、力なく手を振り返す翼。ほどなくしてバスは走り出し、翼は千帆から遠ざかっていく。

翼
先輩、俺は、最後に先輩に逢いたいと願いました。そうしたら、本当に先輩に逢えたんです。奇跡が起きたんですよ。俺は風になったんです。先輩。これからも先輩のことは見守ってますから。いつでも先輩のそばにいますから。先輩の涙は、俺が乾かしてあげますから。だから先輩は、笑っててください。先輩の笑っている顔が、一番素敵ですから。先輩、千帆先輩。ありがとうございます。だいすきでした——。

ゆっくと、そして静かに。翼の姿が透き通り。光りに包まれて消えていく。風がひとつ。流れていった。幕。